

平成24年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	ナショナル競技力向上プロジェクト		担当部局庁	スポーツ・青少年局		作成責任者	競技スポーツ課長 杉浦 久弘	
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度		担当課室	競技スポーツ課				
会計区分	一般会計		施策名	XII-3 我が国の国際競技力の向上				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—		関係する計画、通知等	スポーツ基本計画(平成24年3月30日策定) スポーツ立国戦略(平成22年8月26日策定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	トップレベル競技者が世界の強豪国に競り勝ち、確実にメダルを獲得することができるよう、競技者への支援や強化・育成システムを充実することで、我が国の国際競技力の向上を図る。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	(1)マルチサポートによるメダル獲得プロジェクト メダル獲得が期待される競技をターゲットとして、アスリート支援や研究開発など、多方面からの専門的かつ高度な支援を戦略的・包括的に実施するとともに、女性アスリートの戦略的サポートを実施する。 (2)メダルポテンシャルアスリート育成システム構築事業 有能なアスリートをメダルポテンシャルアスリート(メダル獲得の潜在力を有するアスリート)まで確実に引き上げるシステム(パフォーマンスパスウェイ)を構築するとともに、各強化段階にあるアスリートを次段階へと引き上げるための特別強化・育成事業を実施する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		補正予算				3,214	682	
		繰越し等						
		計				3,214	682	
	執行額							
	執行率(%)							
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	オリンピック競技大会における過去最多を超えるメダル獲得数	成果実績	メダル獲得数					夏季:38
		達成度	%					
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	(1)マルチサポートによるメダル獲得プロジェクト ロンドンオリンピック、ソチオリンピックでメダル獲得が期待できるターゲット競技数	活動実績 (当初見込み)	競技数					— (19)
		(2)メダルポテンシャルアスリート育成システム構築事業 特別強化・育成事業実施競技数	活動実績 (当初見込み)	競技数				— (8)
単位当たりコスト	(1)マルチサポートによるメダル獲得プロジェクト 1競技当たりのコスト(144,471,000円/1競技)		算出根拠	単位当たりコスト=平成24年度マルチサポートによるメダル獲得プロジェクト委託予算額(2,744,949,000円)/ターゲット競技数(19競技)				
	(2)メダルポテンシャルアスリート育成システム構築事業 1競技当たりのコスト(53,371,000円/1競技)			単位当たりコスト=平成24年度メダルポテンシャルアスリート育成システム構築事業(特別強化・育成事業)委託予算額(426,968,000円)/8競技				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	0.2百万円	0	「ナショナル競技力向上プロジェクト」は、①「マルチサポートによるメダル獲得プロジェクト」と②「メダルポテンシャルアスリート育成システム構築事業」の2事業から構成されていたが、24年度限りで①「ナショナル競技力向上プロジェクト」を廃止することとしたため。				
	職員旅費	1.7百万円	0.3百万円					
	委員等旅費	0.01百万円	0					
	スポーツ振興事業委託費	3,212百万円	681百万円					
計	3,214百万円	682百万円						

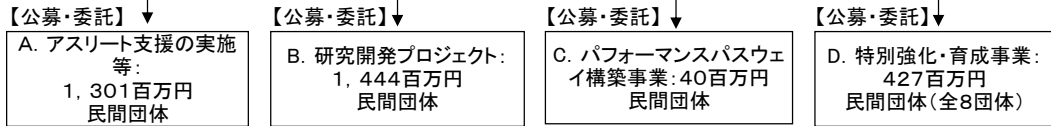
事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	本事業は、スポーツ基本計画の「ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の強化」においてその必要性が明記されるなど、政策の優先度が極めて高い事業であり、また、トップアスリートの活躍は、国民に誇りと喜び、夢と感動などをもたらすものであり、広く国民のニーズがある事業である。なお、オリンピック競技大会における過去最多を超えるメダル数の獲得といった事業目的を達成するためには、統括競技団体、中央競技団体及び強化・研究関係機関との連携を図りながら事業を進めることが重要であることから、国が総合的に推進していく必要がある。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	—	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	—	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	オリンピック競技大会における過去最多を超えるメダル数の獲得といった事業目的を達成するため、統括競技団体、中央競技団体及び強化・研究関係機関との連携を図りながら、効果的・効率的に事業を実施するとともに、予算の適切な執行に努めるべきである。		
予算監視・効率化チームの所見			
本事業は、執行面における課題もなく、事業の成果目標も立てられていることから適切な事業と認められる。			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
スポーツ基本計画について： http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/index.htm スポーツ立国戦略について： http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/1297182.htm 「マルチサポート事業」ターゲット競技種目の追加指定に関する報道発表について： http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/04/1319358.htm			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0366	平成23年行政事業レビュー	0353/新23-0079

※当該資金の流れは、予算積算上において想定される資金の流れを記入したものであり、実際の資金の流れとは異なる可能性がある。

文部科学省
3,214百万円

諸謝金、職員旅費、委員等旅費2百万円を含む

トップレベル競技者が世界の強豪国に競り勝ち、確実にメダルを獲得することができるよう、メダル獲得が期待される競技をターゲットとして、多方面からの専門的かつ高度な支援を戦略的・包括的に実施するとともに、メダル獲得の潜在力を有するアスリートを育成するシステムを構築することで、我が国の国際競技力の向上を図る。



【マルチサポートによるメダル獲得プロジェクト(アスリート支援の実施等)】
スポーツ科・医学・情報戦略など多方面からの専門的かつ高度な支援を実施。

【マルチサポートによるメダル獲得プロジェクト(研究開発プロジェクト)】
競技用具やトレーニング機器等の研究開発、女性のライフサイクルに着目し、男女の性差を踏まえて、出産後に円滑に競技活動へ復帰できるようなトレーニング方法やコーチングなどの研究開発を実施。

【メダルポテンシャルアスリート育成システム構築事業(パフォーマンスパスウェイ構築事業)】
統括ディレクターやコンサルタントを配置し、パフォーマンスパスウェイを構築。

【メダルポテンシャルアスリート育成システム構築事業(特別強化・育成事業)】
各強化段階にあるアスリートを次段階へと引き上げるための強化・育成事業を実施。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

A.アスリート支援の実施等			E.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
賃金	サポートスタッフ、事務スタッフ、研究スタッフ	370			
旅費	サポートスタッフ、ロンドンオリンピックトレーニングパートナー、帯同スタッフ	317			
雑役務費	マルチサポート・ハウス設置業務、女性アスリートサポート調査・分析業務	175			
借料及び損料	マルチサポート・ハウス借料、複合機、AV機器、サポート活動レンタカートレーニング用機器、サポート機器、マルチサポート・ハウス用仮設プール・製氷機・簡易テント等	133			
備品費	消耗品	22			
諸謝金	帯同スタッフ、映像編集・加工作業、現地ボランティアスタッフ、調理スタッフ	18			
通信運搬費	サポート活動用携帯電話通話料、インターネット通信料、機材・食材輸送等	15			
印刷製本費	マルチサポート・ハウス運営マニュアル・リーフレット・IDカード	2			
一般管理費	上記経費の10%	118			
計		1,301	計		0
B.研究開発プロジェクト			F.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
備品費	研究開発用機器	420			
賃金	研究スタッフ、事務スタッフ	400			
雑役務費	競技用具制作・加工・テスト経費、諸外国データ収集費	263			
旅費	研究スタッフ、被験者	157			
消耗品費	消耗品	31			
借料及び損料	スタッフ用PC、複合機	26			
諸謝金	被験者	16			
一般管理費	上記経費の10%	131			
計		1,444	計		0
C.パフォーマンスパスウェイ構築事業			G.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
賃金	パフォーマンスパスウェイ統括ディレクター、パフォーマンスコンサルタント	34			
保険料	パフォーマンスパスウェイ統括ディレクター、パフォーマンスコンサルタント	4			
その他	特別強化・育成事業調査旅費、消耗品、報告書印刷、会議費等	2			
計		40	計		0
D.特別強化・育成事業			H.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
旅費	ポテンシャルアスリート合宿・遠征	52			
その他	消耗品、報告書印刷	1			
計		53	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごと
 に最大の金額が支出され
 ている者について記載す
 る。費目と使途の双方で
 実情が分かるように記
 載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					